

見雷也  
廿九篇



稗員作

國  
夢  
畫

~13  
3877  
15



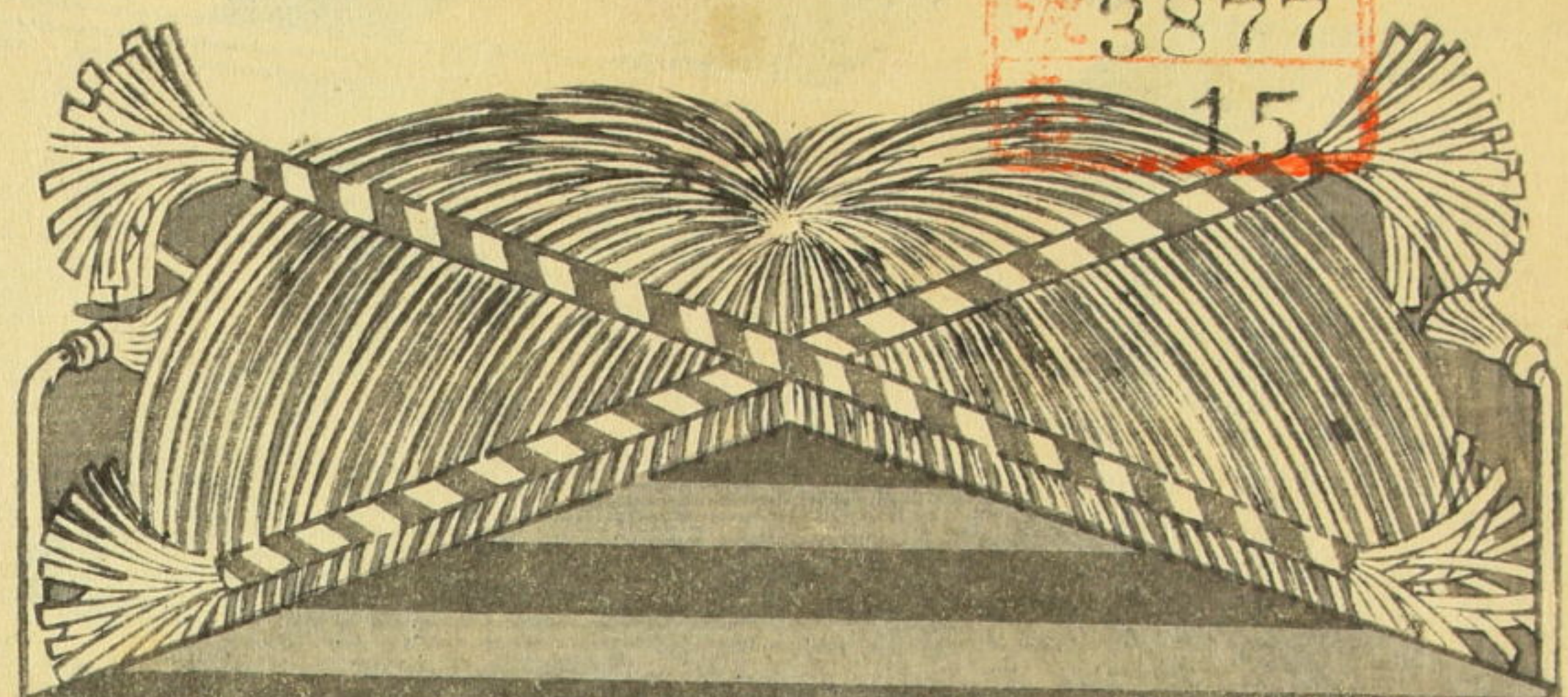


上の巻

兒雷也豪傑譚  
廿九



門 13  
3877  
15



兎雷也豪傑禪  
一龍多國夢画  
目馬甘尔孝椿

一 6

井中の蛙大海と知で無考ふ後編と作繼し大著述的の兎雷  
也物語赤毒の白地恥とさしはは蜘蛛の眼鼻も不分明  
蓋浪編とる九余集蝶蝸のちゆう長譚過る無添寸行止り  
坐魚のめふ華も走らたされごとて又今更ふ免も角もなり  
うぬも我慢で這出蝦蟆の術悪人の尾形周馬が何的間おら  
善人ふ轉毒も用尽し詮方ちうきの禪秀乱犬懸退治の謀略  
ちう賤機山の閑談終趣向も至極扱煩望月が處女の替婿  
場迄小此巻を漸綴果ヤレ悦喜やと蒼息溜息五色の息とホト  
つくさ蟾蜍が吐ある虹霓ふ能似とらんうも

安政丙辰端月 五 柳下亭種員記

日記也上二編

同家の侍女  
細手

なら  
たかや

白先

子代女

いけつん

小松系

ひろ

わかてき

それをき

月詣集

頭録



越後國領主  
月影深雪之助



高砂勇見之助の

照田の

万葉集 大伴家持

初春の

たけの木の

きのの

てみ

う

わ

こののを



田毎前



陸三郎妻  
於園



傘持彦

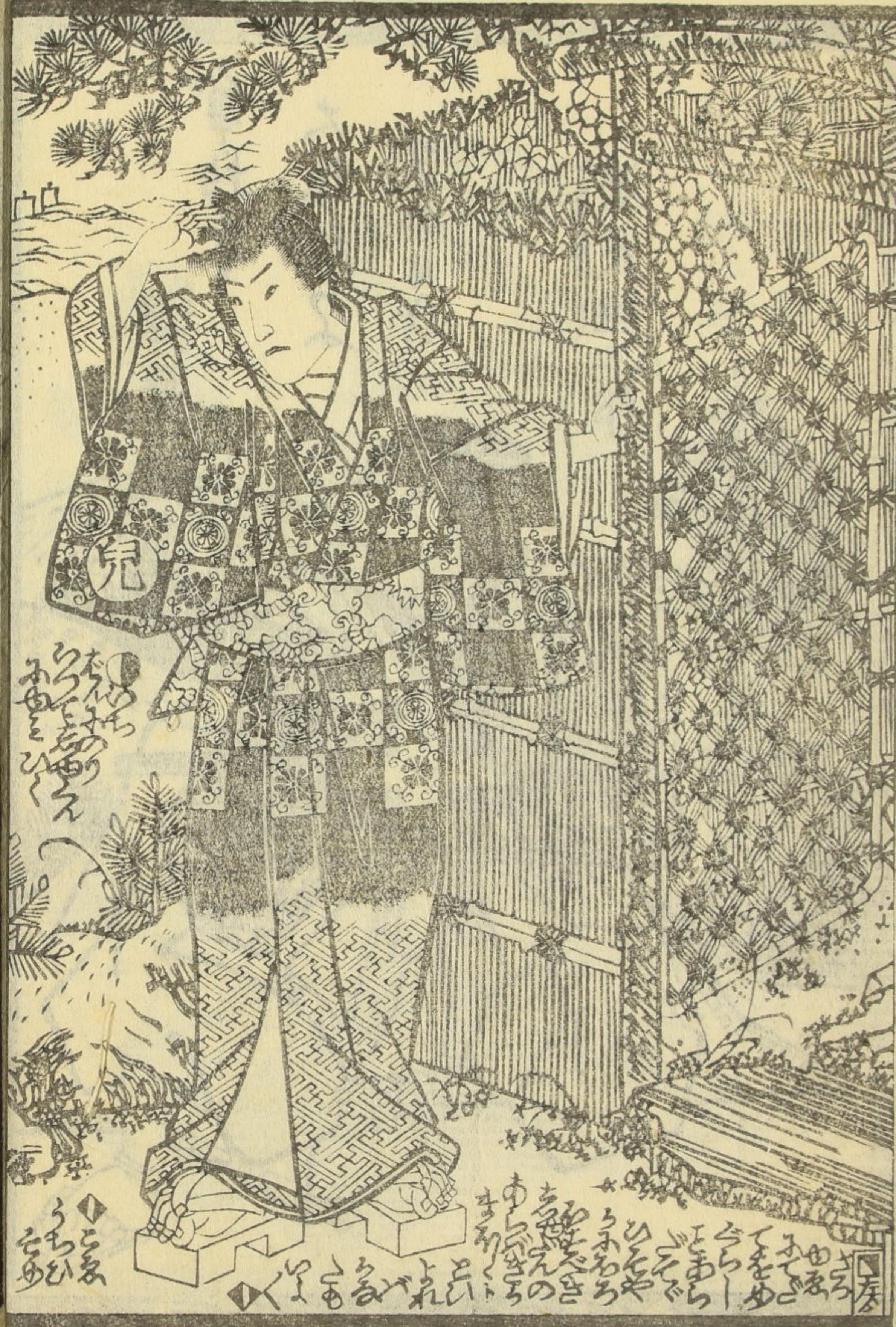
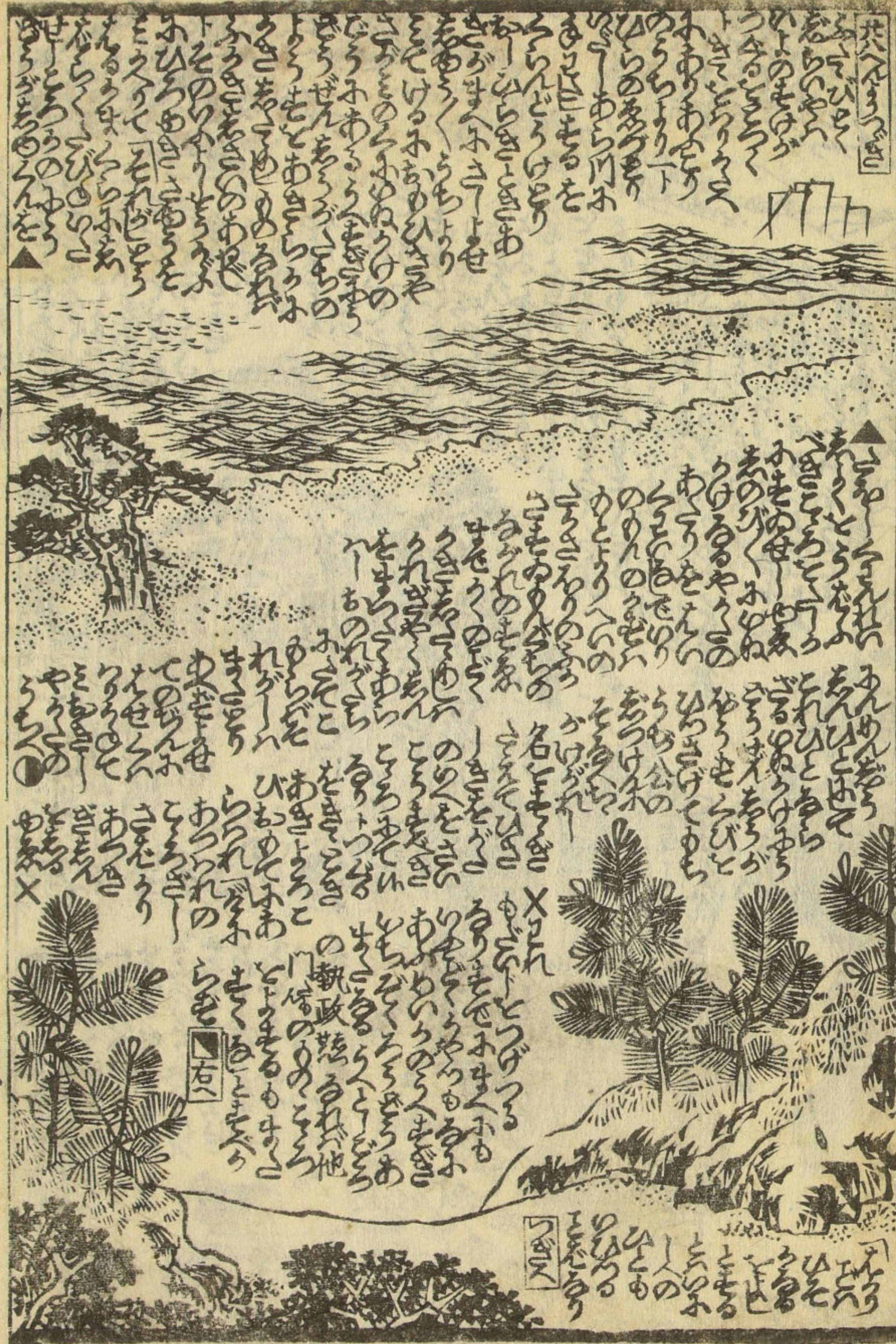
紫平

大根経子

子の日記

濱菰陸三郎





完雷也丹加綿

四















柳下亭種員作  
一龍齋國盛画

补題曲多之阿也

下

泉希



















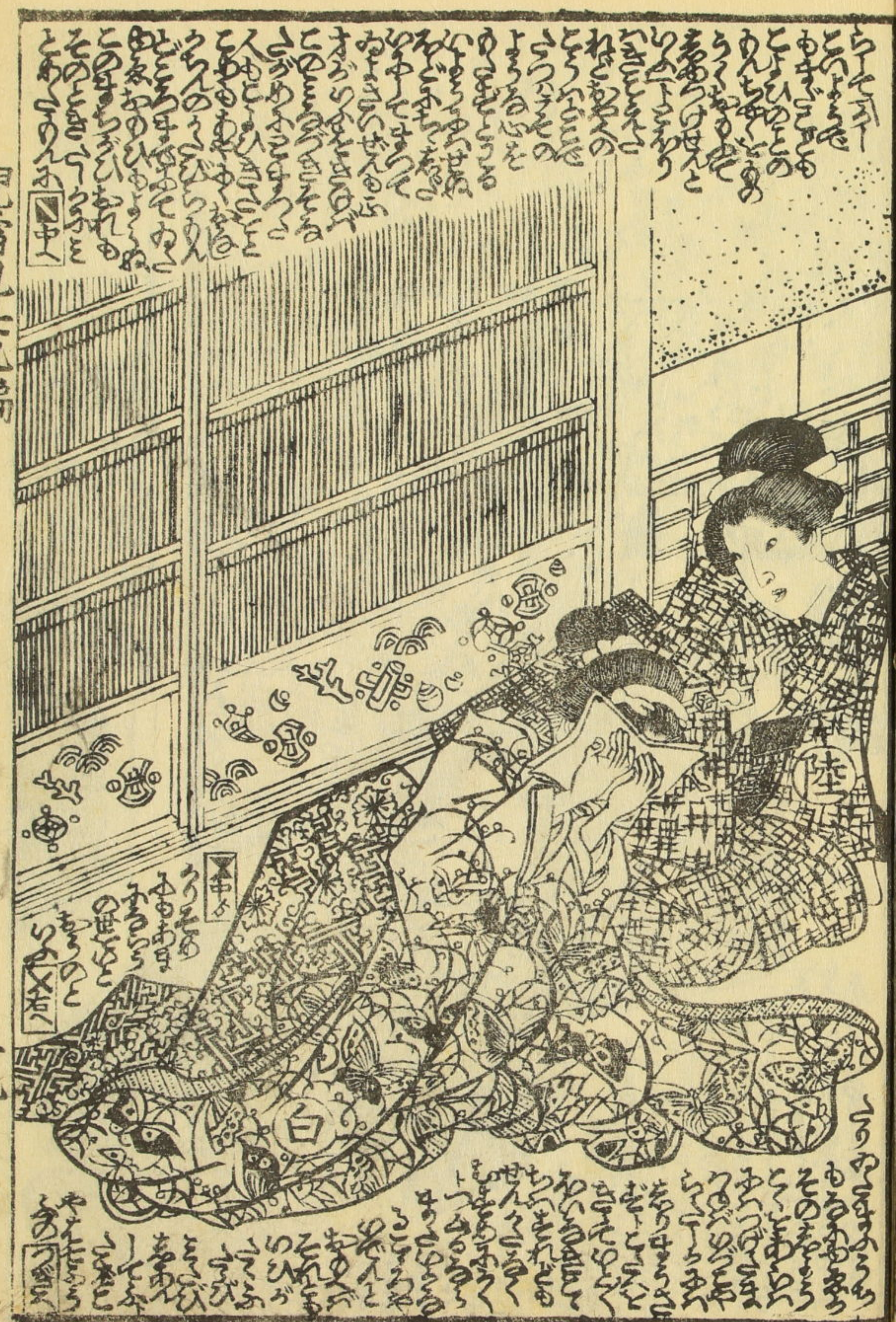




○史記評林  
○萬葉集解

右  
左  
○史記評林  
○萬葉集解

○史記評林  
○萬葉集解  
右  
左



○史記評林  
○萬葉集解

右  
左

○史記評林  
○萬葉集解  
右  
左









外題典義一國志

兒雷也豪傑譚三十編

上



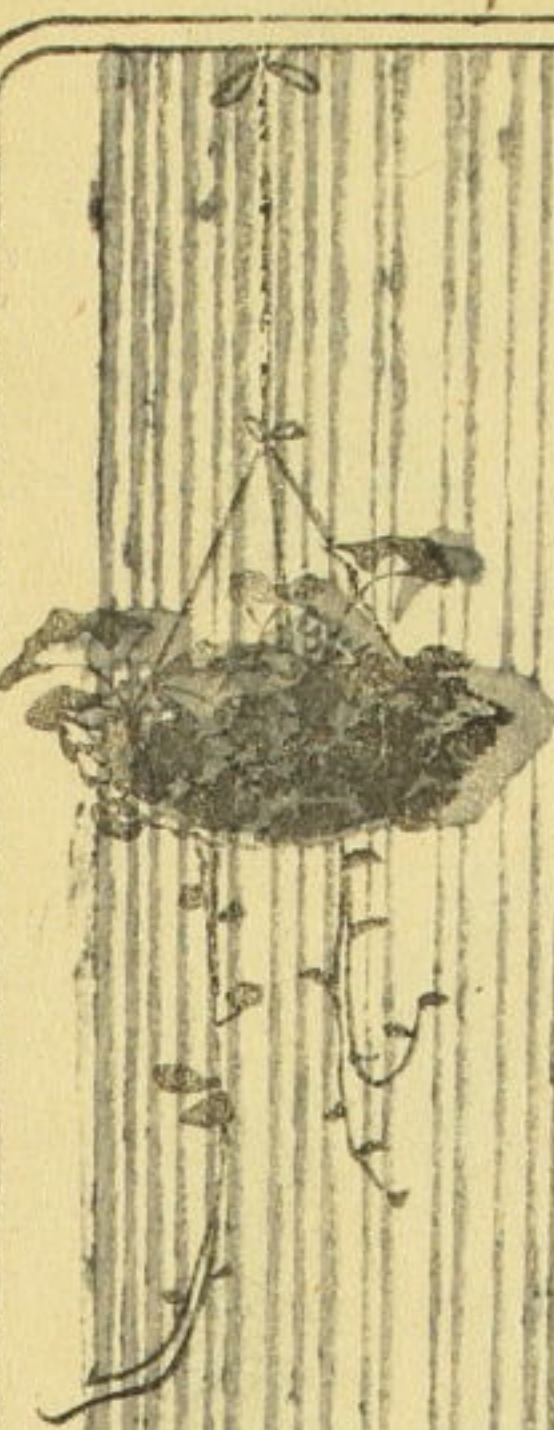
天狗の化かうもの  
 もののそと茶  
 きんとくはる  
 和菜乃やうた



柳下亭種員作

一統高國筆畫

司る泉市梓



世の紛々たるもの天狗の説うるべ諸書不載なる三箇を云ふ

韓退之が辨州乱の詩天狗地不墮て声雷の如とあれは李時珍が

本草の天狗の形鳥のごと見え山海經の天門山に赤犬ありて天狗と号

背の高敷大眼の光天狗飛流して星とあると彼天文志に才圖會うどふ

在天狗星は是れ人妖亦唐山南方の越州に禽ありて名を治鳥と稱呼深山

小栖樹を穿て巢を為過て此を毀壞す即刻に舎を燒亡としり此倭國の天狗ふ

髪髯と僅ふ拳一の兒雷也が望月右内親子の若乃募戀を避んとあ天狗の化と

人界に漫遊ありと欺條下を綴つ不圖前文ふの雷のごと天狗を賦する詩を思

ひを表題の蒙せり雷の字ふ因て天狗の説と序文ふ筆記

安政四年丁巳歳端月

柳下亭種員



日ノ書ノ七編



上

尾形周馬寛行

浅井用宮

西上太良吾

尾形周馬寛行

尾形周馬寛行





長吏非田治  
ちりひいぢ

今川家藩中  
淺原隼人  
いまがわのちんちゅう  
あしはらしんご

中

見番也并紙



遊  
君  
岸  
川

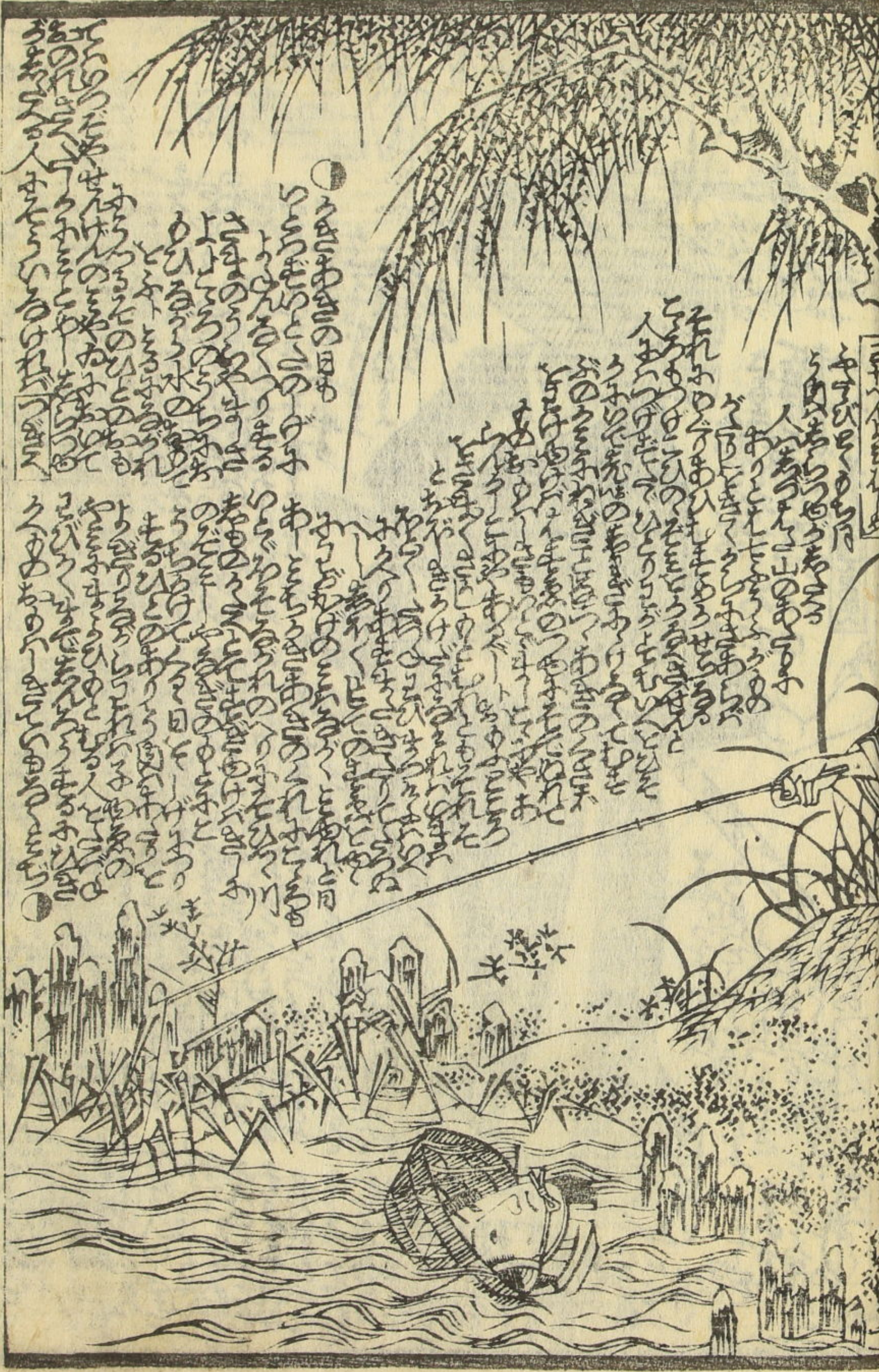
目  
下  
也  
上  
編



鯉  
淵  
現  
藤  
太

知  
雷  
也  
州  
編

下







Handwritten text in the upper right section of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text in the lower right section of the right page, written in a cursive style.

Handwritten text in the upper left section of the left page, written in a cursive style.



Handwritten text in the lower left section of the left page, written in a cursive style.



貞節也廿八





安政四  
丁巳  
春  
發行  
日録記

一猛齋芳希画  
三十九  
六六歌撰詠色双  
身書の收つぎよと極さい  
きふは互をれくのあふりり  
そのけもさうたれが物共の  
のちさこふお極下と極さい

女郎花五色石臺

八編 折下多務員作  
九編 一統齋國盛画

新編金瓶梅

初編 曲亭馬琴作  
十編 大虎  
一陽齋豊國画

黄金水大之盃

五編 為永美水作  
六編 出板 秋川國貞画

小倉百人一首姫文庫

極彩色  
小本一冊

古今俳人百撰

中本 荒木田吉作  
二冊 七がめ参り  
いりては他を流

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

種員作國盛画



淨書  
青洲

三の  
巻八

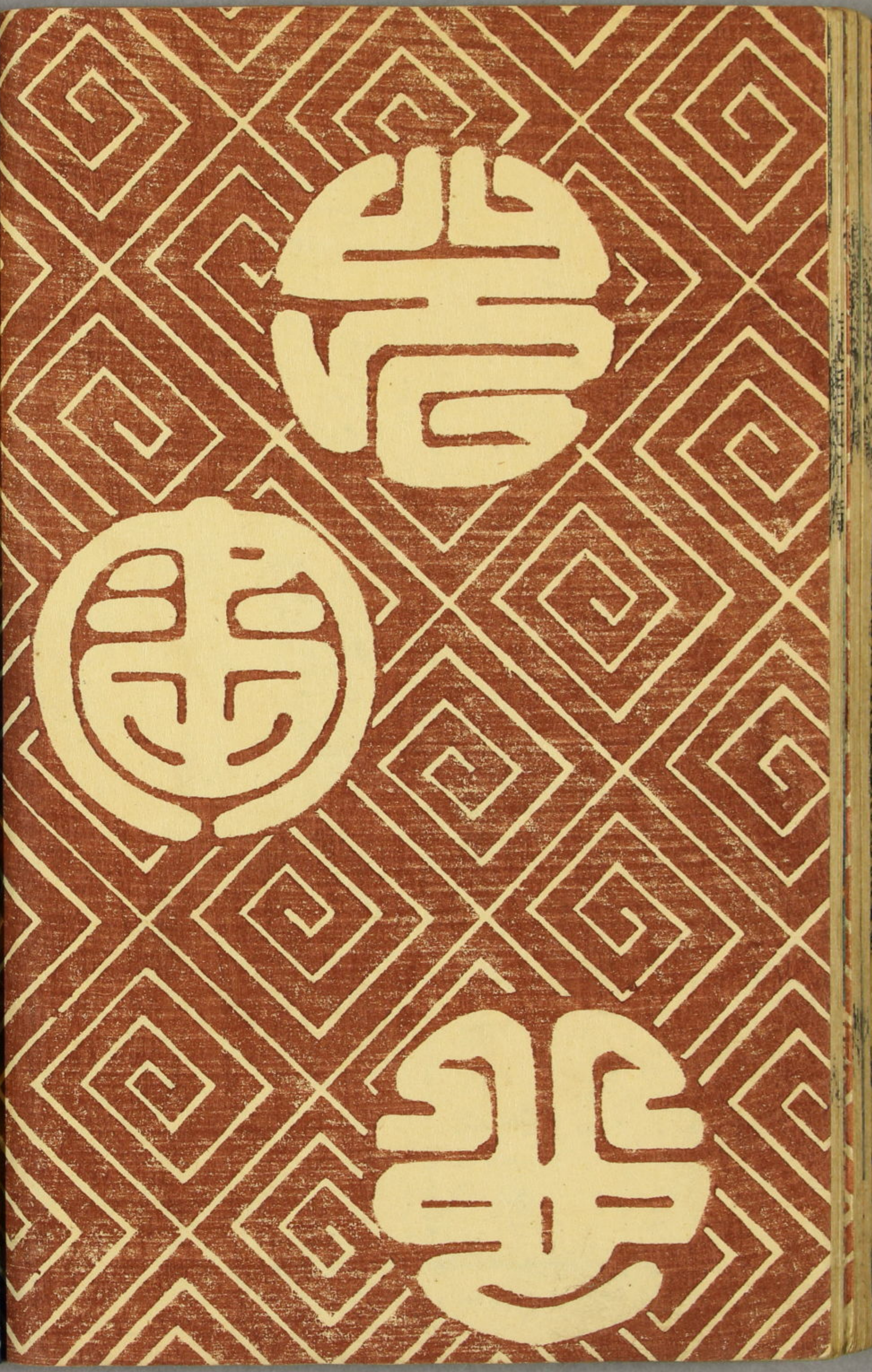
歌川國盛画

柳下亭種員作



芝神明前  
甘泉堂板

下







是の夜は  
 月影の如く  
 静かに  
 流るる水  
 舟の音も  
 聞えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず

舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず

舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず



是の夜は  
 月影の如く  
 静かに  
 流るる水  
 舟の音も  
 聞えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず

舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず

舟の影も  
 見えず

舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず  
 舟の影も  
 見えず

























# 児

傑譚  
第三十卷  
作者  
柳古籍員  
畫工  
國繪  
敬定  
古興

